

沼田城跡(沼田市)

築城年代:天文元年(1532)、築城者:沼田顯泰

沼田市観光案内所の資料より



前方が沼田公園入口



左手を見るとこれは「三の丸の空堀」の名残り



さて、この左手は駐車場となっている



そして、前方の建物は沼田市観光案内所



振り返ると土塁のような高まりがある



標柱に「三の丸土居 堀」とある



説明坂がある



沼田城「三の丸」について

城（城の敷地全体）には本丸・二の丸・三の丸といったその場所ごとの命名がされており、この場所は江戸時代の「三の丸」にあたります。

「三の丸」は、東西約380m、最大幅約120mあり本丸・二の丸の南側に位置し、当時「侍屋敷」があったと考えられています。

さて、ここ沼田公園は「日本の歴史公園百選」の一つのようだ



沼田城の歴史

天文元年(1532年)沼田氏12代の沼田顕泰が築城し柳町の幕岩城から移る。

【上杉氏の支配】

永禄9年(1566年)顕泰は子の朝憲に城主を譲り、側室とその子平八郎を連れて川場村天神城へ隠居したが、平八郎を城主にしたいため、同12年正月朝憲を呼びよせて殺した。顕泰・平八郎は沼田勢に追われて会津へ逃走。上杉謙信が柴田右衛門尉を城代にした。

【北条氏～真田氏支配】

天正6年(1578年)謙信死去。代って小田原の北条氏政・氏直父子が支配。天正8年(1580年)6月真田昌幸が入城。翌9年3月平八郎は沼田城奪還のため来攻したが、昌幸の策に乗った金子美濃守に城内で謀殺され、沼田氏滅亡。

【滝川氏城代】

天正10年織田信長は滝川儀太夫を城代にしたが、六月信長が本能寺で討たれ、滝川は去り、真田の一族矢沢頼綱城代となる。

【真田氏城主】

天正17年(1589年)真田氏北条氏と和し、北条氏の有となったが翌年北条氏が、真田の所領名胡桃城を掠奪したため豊臣秀吉は怒って小田原の北条氏を撃滅し、沼田を真田昌幸に与え、昌幸の長子信幸が初代沼田城主となる。

元和2年子の信吉。寛永12年信吉の長子熊之助。同16年信吉の弟信政を経て明暦3年(1657年)信吉の庶子伊賀守信直五代城主となる。

【沼田真田氏滅亡】

天和元年(1681年)11月、幕府は悪政を理由に伊賀守を追放、3万石の領地を没収、五層の威容を誇った沼田城は破却された。

【代官時代】

以来5人の代官が在任。

【本多氏】

元禄16年(1703年)本多正永が城を再建、2代正武、3代正矩が城主。享保15年後藤庄左衛門が代官となる。

【黒田氏】

享保17年(1732年)から11年間、黒田直邦、直純が城主。

【土岐氏～明治】

寛保元年(1742年)土岐丹後守頼稔(寺社奉行、大阪城代、京都所司代、老中を歴任)が駿河国田中から移封されて沼田城主となり、以来12代土岐隼人正頼知が、明治2年(1869年)藩籍を奉還するまで、127年間城主であった。

沼田市・沼田市観光協会



沼田市指定史跡
沼田城跡


沼田城跡
沼田城跡は、沼田藩の藩庁所在地として、1687年（元禄14）に築城された。城跡は、現在、沼田公園内にあり、石垣や土塁の遺構が確認できる。また、城内には、藩政の中心地として、藩校や藩邸などの遺構も残っている。この地は、沼田藩の中心地として、1687年（元禄14）に築城された。城跡は、現在、沼田公園内にあり、石垣や土塁の遺構が確認できる。また、城内には、藩政の中心地として、藩校や藩邸などの遺構も残っている。

沼田市指定史跡

沼田城跡

指 定 昭和五十一年三月三十日

所在地 沼田市西倉内町

管理者 沼田市

沼田城は、天文元年（一五三二）に三浦系沼田氏二代万鬼齋顕泰が約三ヶ年の歳月を費やして築いた。当時蔵内（倉内）城と称し、沼田市街地発祥のかなめで、当市の歴史の起点でもある。

築城して四八年後の天正八年（一五八〇）武田勝頼の武将真田昌幸が入城し、城の規模を広げた。天正一八年（一五九〇）昌幸の長子信幸が沼田領二万七千石の領主となり、慶長年間に五層の天守閣を建造した。天和元年（一六八一）に真田氏五代城主伊賀守が徳川幕府に領地を没収され、翌二年一月に沼田城は幕府の命により破壊された。その後、本多氏が旧沼田領一七七ヶ村のうち四六ヶ村・飛地領合わせ四万石の藩主として入封し、幕府の交付金で城を再興し三の丸に屋形を建てた。次いで、黒田氏二代、土岐氏二代の居館となったが、明治になって版籍奉還し屋形も取り壊された。時を経て本丸・二の丸跡が、現在の沼田公園に変貌した。

平成十二年三月

沼田市教育委員会



さまざまな記念碑が立っている



沼田城ハ天文元年沼田頭榮カ築キ、初ノ蔵内城ト称
 一人通レテ重縁ノ大友氏ノ領地沼田ヘ未タリ景恭ト称
 城ヲ經テ此ニ至ル、恭城ヲ子朝憲ニ譲リ未子景義ト
 津ヘ進亡ス、沼田ハ上杉、北条ニ代リ天正八年真田昌
 父金子ニ殺サレ沼田氏亡ブ、翌十年武田、織田亡ヒ真
 万ノ軍テ攻メテ敗レ、秀吉ニ乞イ城ヲ得、更ニ名胡桃
 子、沼田領三万石ヲ昌幸ノ嫡子信幸ニ与ウ、信幸ハ夫
 忠ニ從イ上田城ノ父ト弟幸村ト戦イ、戦後信幸ハ上田
 田城太守閣ヲ建テ、嫡子信吉ニ城ヲ譲リ松代十万石ニ
 助ハ早世、四代信政松代ヲ繼キ、信吉ノ末子伊賀守信
 開拓シ善政ヲ施ス、然ルニ天和元年十一月幕府ハ伊賀
 領地ヲ測量シ六万五千石ノ内二万石ヲ沼田領トシ、本
 二年生歧賴稔入封シ、飛地領共三万五千石藩主トシテ

沼田市文化財調
 表面題字 沼

ス。沼田氏ノ祖ハ三浦氏也。室治ノ乱ニ
 シ、以來十二代、莊田、小沢、幕岩ノ三
 川場へ移リ、永祿十二年朝憲ヲ謀殺シ、会
 辛入城シ翌年景義ハ城奪還ノ兵ヲ寄セ伯
 田再ヒ沼田ヲ領ス。北条ハ五回延へ十三
 城ヲ侵掠ス。秀吉怒リ同十八年北条ヲ討
 大小松姫ガ家康ノ曾孫故、関ヶ原役ニ秀
 領六万石加増サレ、慶長十二年五層ノ沼
 移封サレ、信吉ハ城鐘ヲ遺シ、三代熊之
 直五代ヲ嗣ク。信幸以來九十年間治水
 守ノ失政ヲ責ム。于改易シ城郭一切ヲ破却
 多氏ヲ封シ館ヲ新築。黒田氏ヲ隆テ寛保
 十二代百二十七年間ニシテ版籍ヲ奉還ス

査委員

岸

大洞

撰文

田市長

堀江文夫

謹書

さて公園に入ってすぐ右手を見ると、一段下がった所にテニスコートがあり、その更に向こうは野球場となっている



テニスコートの右手は「三の丸跡」



このテニスコートは堀跡であったようだ



テニスコートの向こうは野球場で、ここは「二の丸跡」



左手がテニスコートで、右手が野球場/正面に土塁のような高まりがある/南側から北方向を見たところ



これは反対に、その土塁跡を南側から北方向を見たところ



こんな感じ



このグラウンドが「二の丸跡」



それでは沼田市観光案内所に入ってみよう





上州沼田

真田丸展

開催中

会場
グリーン121-1階
ここから徒歩7分



真田幸綱の画像（長野県歴史博物館蔵）

真田幸綱は、上州沼田に生まれ、幼少時に父の早逝により、母と弟と共に生活した。1600年の関ヶ原の戦いで、父の死を報知し、戦後、母を養育し、弟を育て上げた。1615年の大坂の陣で、父の仇討ちを果たし、戦後、母を養育し、弟を育て上げた。



真田昌幸の武者図（沼田歴史博物館蔵）

真田昌幸は、上州沼田に生まれ、幼少時に父の早逝により、母と弟と共に生活した。1600年の関ヶ原の戦いで、父の死を報知し、戦後、母を養育し、弟を育て上げた。1615年の大坂の陣で、父の仇討ちを果たし、戦後、母を養育し、弟を育て上げた。



真田信幸の画像（長野県歴史博物館蔵）

真田信幸は、上州沼田に生まれ、幼少時に父の早逝により、母と弟と共に生活した。1600年の関ヶ原の戦いで、父の死を報知し、戦後、母を養育し、弟を育て上げた。1615年の大坂の陣で、父の仇討ちを果たし、戦後、母を養育し、弟を育て上げた。



小松政之の画像（沼田歴史博物館蔵）

小松政之は、上州沼田に生まれ、幼少時に父の早逝により、母と弟と共に生活した。1600年の関ヶ原の戦いで、父の死を報知し、戦後、母を養育し、弟を育て上げた。1615年の大坂の陣で、父の仇討ちを果たし、戦後、母を養育し、弟を育て上げた。

これは沼田城跡から出土した瓦他



さて、テニスコートの左手に「本丸堀跡」が残っているらしい



堀跡の左手に石垣が残っている



アップで見たところ



これは先程の土塁の上に立つ①壽樂園碑



これは②生方たつゑ歌碑



これは「本丸堀跡」を反対側から見たところ



その説明板が立っている



ぬま た じょう ほん まる ほり あと
沼田城本丸堀跡

沼田城二ノ丸（野球場）から本丸（現在の花壇）の間に設けられた堀は、幕府に提出した絵図（正保城絵図）によると、本丸側に唯一石垣が積まれた沼田城で最も規模が大きな堀でした。絵図には堀幅12間（約24m）で本丸に入る櫓門付近の石垣高は3間（約6m）と記されています。奥に見える池がこの堀の名残で、右側の石垣は天守があった真田氏の頃の石垣の一部と考えられています。

平成9年に、この植え込みの中を発掘調査したところ、池の石垣に連なる石垣の一部と堀の中に崩された石や多くの瓦が出土しました。おそらく地中にはさらに北側数十mに渡り石垣の下部が現存し、城が破却された際に埋め立てられたおびただしい瓦や石が埋没していると考えられます。

出土した軒丸瓦は三巴紋で、その周囲を巡る珠点は16個を数え、信州の上田城出土瓦などとの類似性が認められています。



1間=6尺5寸=約2m 軒丸瓦(径16cm)

ここで出土した遺物が沼田市観光案内所にあったものらしい

沼田城跡本丸堀発掘調査



図1 正保城絵図

平成27年度調査箇所

平成27年8月から9月にかけて沼田公園長期整備構想に基づく発掘調査を行いました(図1)。

調査箇所は正保城絵図に当てはめてみますと、大門の付近となります。なお、正保城絵図は4代真田信政の時代に幕府から提出を求められたもので、1644年頃に提出したと考えられています。



写真1 遺物出土状況

※石垣の裏込めの役割について
水はけを良くすることで、石垣に余計な土圧がかからないようにする役割があります。

石垣の高さ3間(正保城絵図記述より)あると考えられる。3間は約6m。

石垣は約1m50cm残存。

図2・3は説明用の図です。
当時の姿を復元したものではありません。



図2 石垣と裏込めの断面解説図



図3 堀から見た塙の解説図

調査の結果、石垣は堀底から約1m50cmの高さまで残存し、約3mの高さまで裏込めを確認しました。また正保城絵図に記された石垣の高さは3間(約6m)ということを考慮しますと石垣は1/4ほどが残存し、そこから上は破壊されたと考えられます(図2)。

今回の調査では瓦が大量に出土しました(写真1)。これらは堀に置かれていたものと思われ、城破却時に投げ捨てられたと考えられます。調査箇所に該当する部分の正保城絵図には堀、石垣そして塙が描かれています(図3)。その他、調査により本丸堀の深さが何段階か変遷している様子がうかがえました。

観光案内所にて沼田城跡出土遺物を展示しております。

沼田市教育委員会

沼田市観光案内所の資料より

本丸堀の石垣発掘調査

沼田城跡発掘調査について

平成27年11月22日
沼田城跡発掘調査
現地説明会 解説資料
主催 沼田市教育委員会

調査位置：沼田公園内（西倉内町字滝棚594番地）

調査面積：約300㎡

調査期間：平成27年8月24日から9月18日まで

調査原因：沼田公園長期整備構想における沼田城整備のため

検出遺構：本丸堀、本丸堀に伴う石垣等

検出遺物：大量の瓦のほか、金属製品、陶磁器



平成27年度
調査位置





図1 調査区位置図

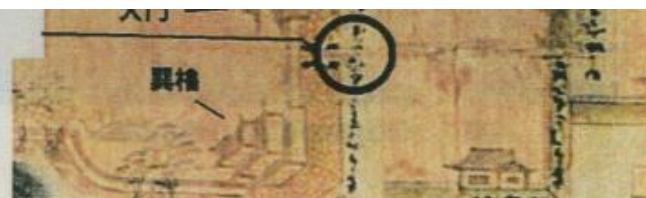


図2 正保城絵図(沼田城)

しょうほうしるえす
正保城絵図の沼田城図は、4代藩主真田信政が幕府に提出した軍事施設が主題の図(1644年頃提出)です。

検出された
裏込めの範囲



図3 石垣の立面図 (S=1/100)

今年度調査で新たに検出した石垣は南北8mで、石垣の石自体は堀底から約1.5mの高さまで残存していました。正保城絵図記載の高さ3間(約6m)を考慮すると、石垣の石は堀底から1/4ほど残存していることが推測されます。

沼田市観光案内所の資料より



のきまがわら
図4 軒丸瓦出土状況



図5 遺物出土状況 (写真中央に丸瓦)



図6 石垣の検出状況 (東から撮影)



図7 石垣下の状況

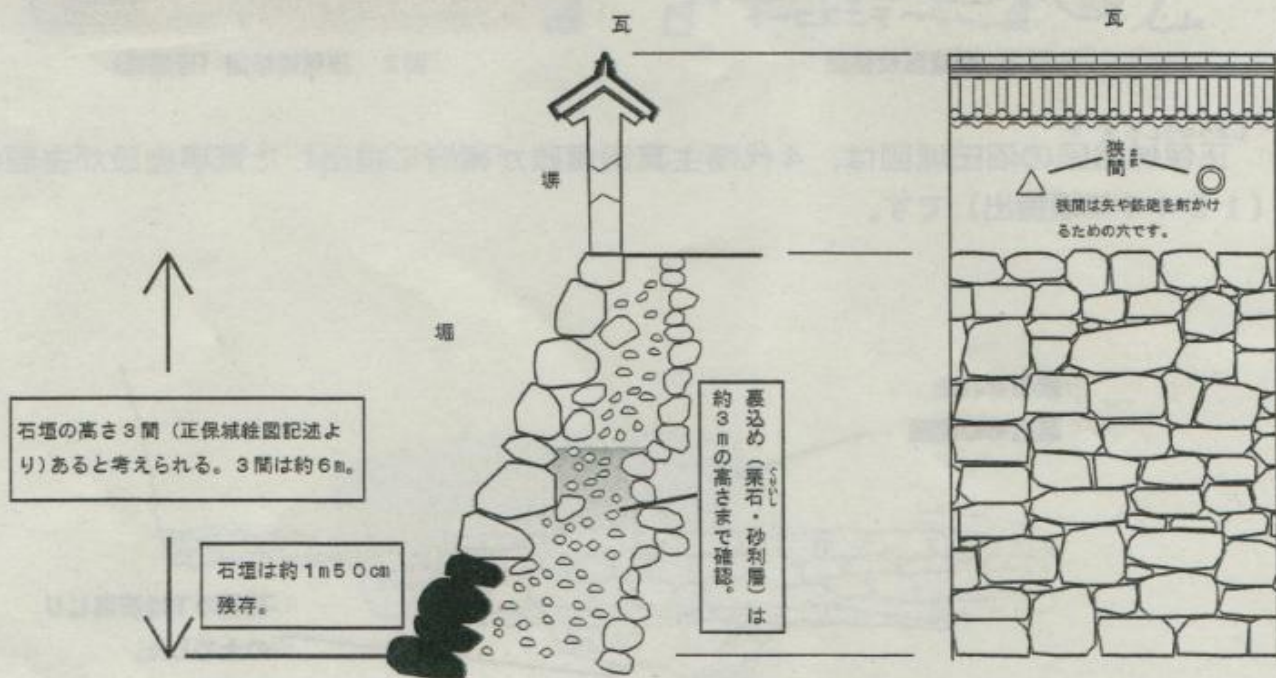


図8 石垣・塀の模式図

石垣の裏込めは、水はけを良くして石垣に余計な水圧がかからないようにするためのものです。また狭間は今回の調査では確認されておきませんが、正保城絵図の本丸堀の塀を見ますと、狭間が描かれております。狭間には鉄砲狭間や矢狭間などがあります。塀の中から外の敵に向かって矢や鉄砲を射かけるための穴です。

振り返ると池があるが、これも「本丸堀跡」の名残りか



さて、その「本丸堀跡」の西側(正面やや右手前)に「本丸御門跡」の標柱が立っている





また、振り返ると「本丸跡」の標柱が立っている



この一帯が「本丸跡」/西方向を見たところ/左前方に鐘楼が見える



また、「本丸跡」には銅像が立っている

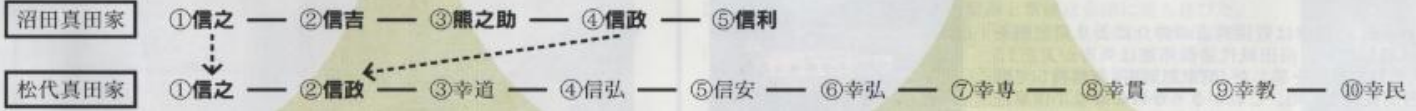
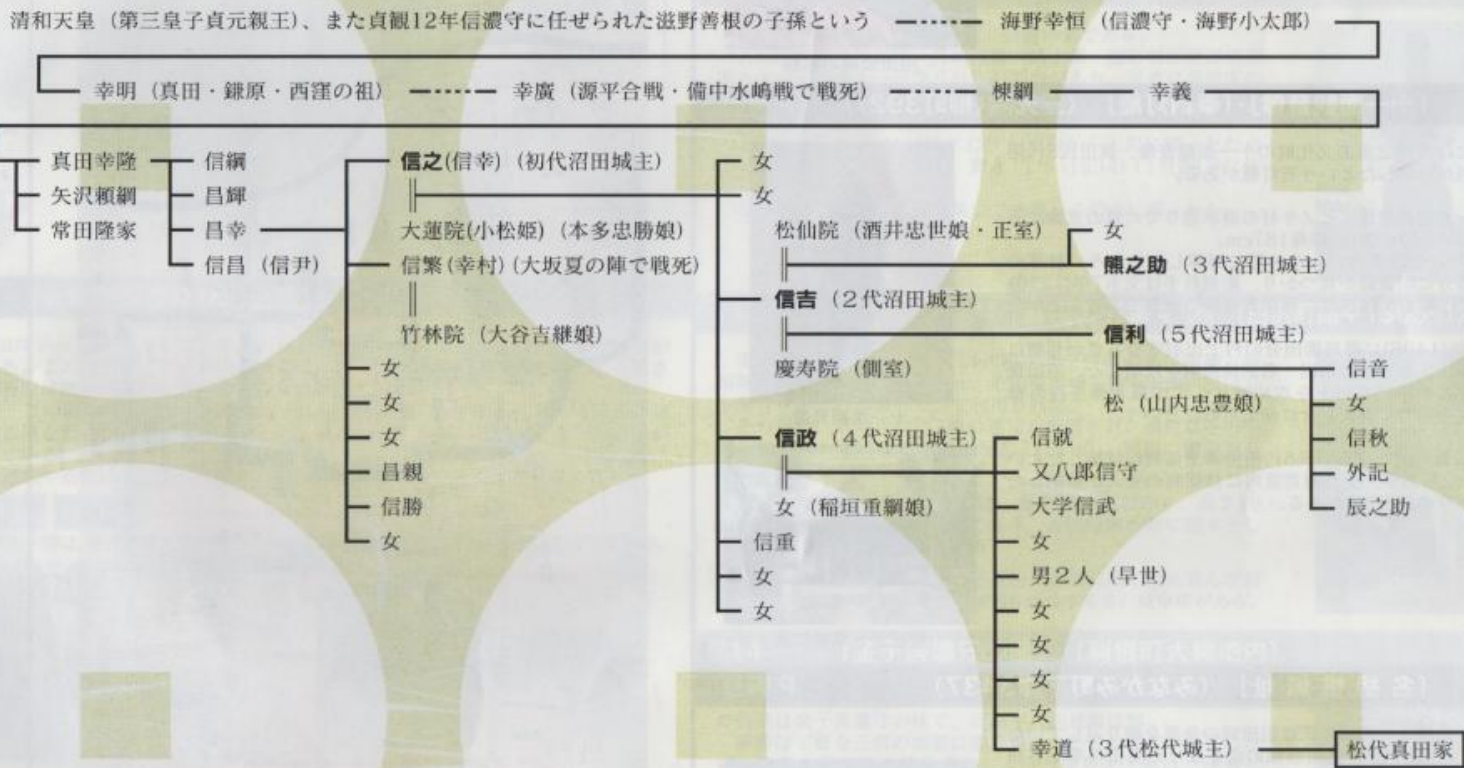


真田信之と小松姫の銅像



沼田市観光案内所の資料より

真田氏系譜



これは④久米民之助胸像



これは③久米民之助顕彰碑



これは⑤沼田の歌歌碑



これは⑥金子刀水句碑



これが⑦鐘楼



鐘 楼

真田氏が沼田城主時代は城内に建てられていたが、廢城により取りこわされた。明治二十年ころ沼田町役場（舊役所跡、現市役所）東北隅に楼を建て、柳町軟楽院の梵鐘を借りて時の鐘にした。十年後に楼を修復した際その鐘も返し中興寺で保存の城跡を懸け替えた。以来鐘楼は鐘撞室と呼ばれ、戦時下にも供出をまぬがれたその鐘の音は、永く市民に親しまれてきた。昭和三十九年市役所庁舎建設に際し撤去されたが、市民の熱望により城の本丸跡のここに移して復元新築された。

昭和五十八年三月

沼田市教育委員会

県指定重要文化財城鐘は中央公民館で展示しています。この鐘楼にある鐘は城鐘の代わりとなる梵鐘です。

群馬県指定文化財

城 鐘

総高 一四センチメートル 口径 六七・五センチメートル

銘文 于茲寛永拾一閏逢閏戊孟秋之比。上州沼田之主将真田河内守。令鑄造洪鐘之戒発明二六時中或奏進諸士仁人智勇民流清野耳於為快然而已云々。以其次序擬實跡述一偈云爾。多幸。蒲牢一声萬天轟。上下覺民心禪清。主将掃城備身久。從此安全國家城。時寛永拾一歲甲戌閏七月吉日。滋野朝臣信吉公。

當郡先太守河州信吉公為兵鑄此洪鐘以建於樓城廓之三圍序銘辭如左。然則天和辛酉信直公蒙配命且亦及殲於城裏。上使議而以此鐘將埋却土中予不忍責唯歎可誦於世公姓名于土泥故設上頌乞照吾功德山者也。伏願且打夕撞鈴幽冥祖靈重興真田之天運矣。更頌曰。昔為兵縣在郭亭。今成功德器驗冥。梵音平等醒邪夢。自他往生正是寧。時天和第二亥貳開闢。初春下旬第五日。功徳山平等寺住持院願主極律師帆成通。敬白。彰庭間氏好重。

沼田城関係年表

和暦	西暦	城主(藩主)	沼田城関係の事項	時代の動き
天文 元	一五三二	沼田顯泰	この頃、沼田氏十二代万鬼斎顯泰、沼田城(蔵内城)を築城し幕府城から移る。	武田信玄没(天正元年、一五七三)。
天正 六	一五七八	北条氏城代	謙信の死による上杉家内紛に乗り、沼田城は北条氏邦の支配下に入る。	
	九一五八一	真田氏城代	かつての沼田城主沼田氏末裔、沼田平八郎景義が沼田城奪回を計るが、昌幸の策略で伯父の金子美濃守らに謀殺される。	
	一八一五九〇	真田信幸	北条氏沼田城代猪俣能登守が、真田氏所有の名胡桃城を掠奪したことに端を発し、秀吉の小田原征伐が敢行され、沼田城は昌幸の長男信幸に与えられる。二万七千石。	豊臣秀吉の小田原征伐により小田原北条氏滅びる。
慶長 二	一五九七		信幸、沼田領の検地を行う。貫高制。(下河田検地帳)	豊臣秀吉没。(慶長三年、一五九八)
	五 一六〇〇		信幸、沼田城に間口十間奥行九間、五重の天守を造営する。(一説には慶長一二年)	徳川家康征夷大將軍に任ぜられる。(慶長八年、一六〇三)
元和 二	一六一六	真田信吉	信之、沼田城西側の水手門と二重櫓を築造。	徳川秀忠二代將軍に就任。(慶長十年、一六〇五)
寛永 五	一六二八		信之、上田城に移り、沼田城主を信吉に譲る。	
	一一一六三四		川場用水の完成。	
	一一一六三五	真田熊之助	信吉、真田家と領内の安泰を祈り、城鐘(鼎重文)を鑄造。	
	一六一六三九	真田信政	信吉の子、熊之助、四歳で三代沼田城主となる。	
正保 二	一六四五		熊之助の叔父、信政、四代沼田城主(藩主)となる。四十二歳	
明暦 二	一六五六	真田信澄	信政、この頃幕命により城絵図を幕府に提出。	明暦の大火で江戸城天守焼失。関東で五重(層)の天守現存は沼田城のみ
寛文 四	一六六四		信澄、沼田城天守修復。本丸の地形(盛土)、三光院に石燈籠等寄進。この頃、岡谷・戸神・町田用水等を完成させ総検地で表高三万石(貫高制)から十四万六千石(石高制)とする。	徳川綱吉五代將軍に就任。大老酒井雅楽頭忠清失脚。(延宝八年、一六八〇)
天和 元	一六八一		江戸両国橋用材伐出し遅延と失敗を幕府に咎められ、信澄閉門・改易。信澄は出羽山形藩奥平氏へ、長男信就(信吉)は播磨赤穂藩淺野氏へ預けられる。	徳川吉宗、八代將軍に就任し、享保の改革始まる(享保元年、一七一六)
	二 一六八二	(代官)	幕府の命により沼田城は全て破却され、堀も埋められる。	
元禄 一	一七〇三	本多正永	本多伯耆守正永、沼田に移封され、城を一部再興。(二万石)	徳川吉宗、八代將軍に就任し、享保の改革始まる(享保元年、一七一六)
	一七二七三二	黒田直邦	黒田豊前守直邦、常陸国下館城より沼田藩主となる(三万石)	
享保 二	一七四二	黒田直純	二代直純、上総国久留里へ移封となり、老中土岐丹後守頼裕沼田に入封する。沼田学舎を創設し家臣に武芸・儒学を奨励する。(三万五千石)	
天明 元	一七八一	土岐定経	領内に見取高入れに反対する百姓騒動(見取騒動)起きる。	天明の大飢饉。浅間山大噴火。(天明三年、一七八三)
文政 一	一八二八	土岐頼功	九代藩主頼功、勝軍地蔵尊を祀るため『雨宝殿』を建立。	
慶応 四	一八六八	土岐頼知	十二代藩主頼知、朝廷に恭順の意を表し、京都に上る。翌年版籍奉還し、沼田藩知事就任。	この年九月八日に明治に改元され、江戸を東京と改める。



真田氏時代
沼田蔵内城
北村明道 作

真田氏時代
沼田蔵内城
明道繪

沼田市観光協会建之

これは「本丸跡」を西側から東方向に見たところ/正面やや左手に鳥居が見える



右手に説明板が立っている





この右奥に天守があったという



こうずけの くに むま た じょう え す
上野国沼田城絵図 (部分)

この絵図は、江戸幕府3代将軍家光が正保年間(1644~1647)に、全国の大名に城の防備体制を絵図に描かせて提出させた、いわゆる正保城絵図の一つで、真田氏4代城主信政の時代の沼田城と城下町の様子が分かる非常に貴重な資料です。原図は国立公文書館内閣文庫に所蔵され、大きさは1.76m×2.34mもあります。

絵図には、城を中心として石垣の高さ、堀や土塁の規模、堀中の流水の有無や城下町の道程、等兵法上の秘密となるべき事柄が克明に記されています。真田氏が改易になる天和元年(1681)まで存在していた天守や櫓及び城門等の形態を知ることができます。

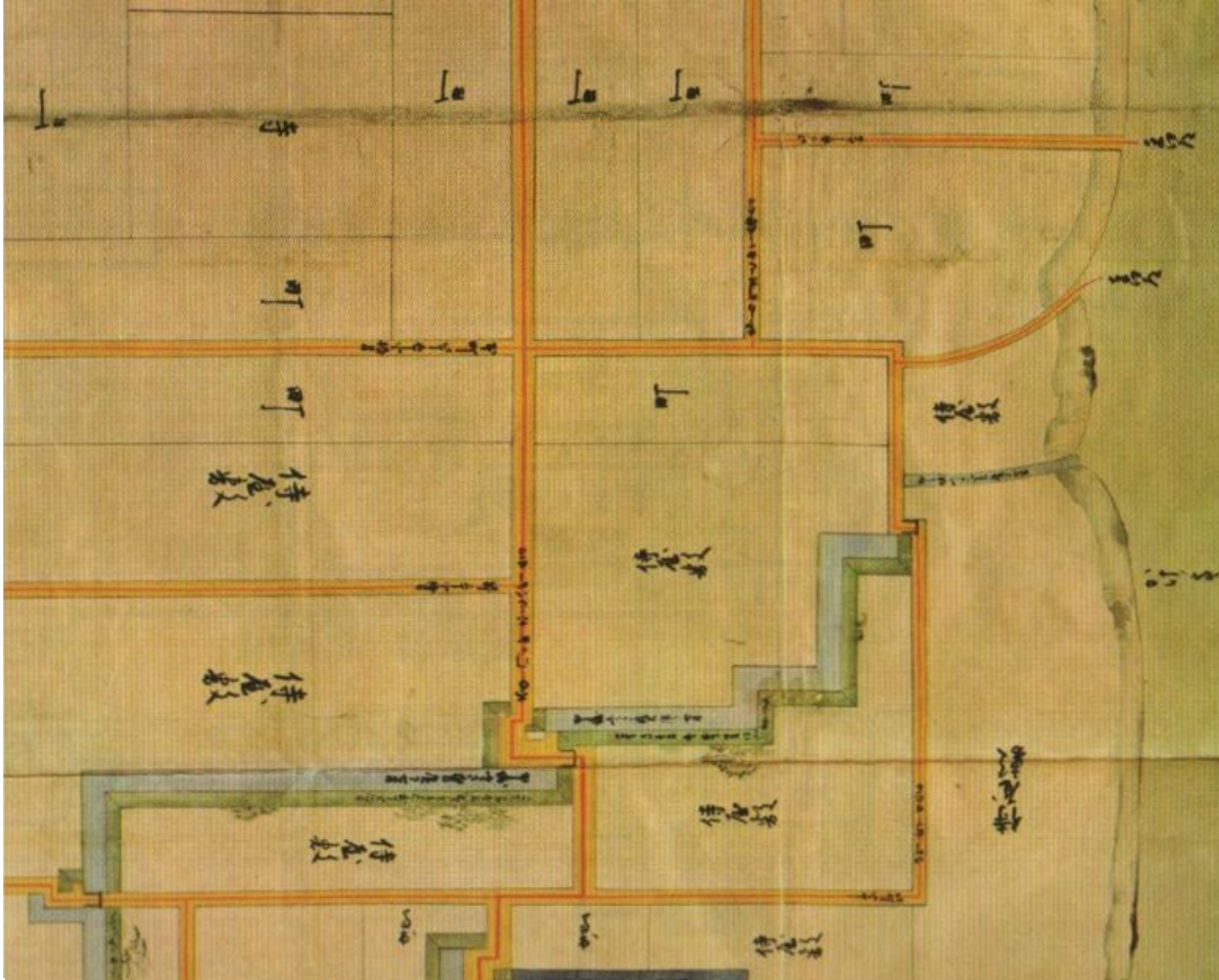
てん しゅ
沼田城天守

沼田城の天守は、真田氏初代城主となった信之(幸)が慶長年間(1596~1614)に建造したと伝えられ、城絵図や古文書から規模は柱間で9間×10間(推定18m四方)の5重であったとされています。天守は、この右奥に位置していたと考えられますが、幕府に提出したこの絵図によると、天守東の石垣は堀の底から8間もの高さがあり、屋根には千鳥破風(三角形の屋根)が多くみられ、最上階には高欄が巡っていた様子が分かります。関東における5重の天守は江戸城以外は沼田城だけであったことや、天守付近から金箔瓦(金箔を張った瓦)も見つかっていることから、関東において沼田城は特別な城であったと考えられます。

この名城も、残念ながら5代伊賀守が天和元年(1681)に改易となった後に、幕府によって全て破却されて、以後、天守や櫓は再建されることはありませんでした。

沼田城の別称(倉内城・鞆打城・露城)

上野国沼田城絵図(部分)/沼田市観光案内所の資料より





これは利根英霊殿



この辺りが天守のあった場所



標柱が立っている





さて、ここは「本丸跡」の西側で、ここに西櫓台の石垣・石段が残っている



沼田城跡西櫓台の石垣・石段

天文元年(1532)頃に沼田顕泰によって築かれた沼田(倉内)城は、上杉・武田(真田)・北条氏などの有力大名の狭間にあり、その属城として幾多の変遷をたどってきたが、天正18年(1590)の北条氏滅亡以降は正式に真田氏の所有する城となった。真田昌幸の嫡男信幸は、初代城主として城郭の大改修を手がけ、慶長年間(1591~1614)には五重の天守をはじめ各種櫓や門などを建造して近世城郭として整備を行った。しかし、天和元年(1681)に真田氏が改易になると城は壊された。その後、本多・黒田・土岐氏と城主は代わり明治を迎えたが、城の本格的な復興はなされなかった。

発掘調査により発見されたこの石垣や石段は、西櫓台(前方の小高い部分)に伴うものであり、出土した瓦などから真田氏時代の遺構と考えられる。5代城主信利(信澄)の改易により、翌年城は跡形もなく破却されたと云われていたが、壊されずに地中に埋められていた部分が、300年以上を経て再び往時の姿を現わしたのである。

発掘部分石垣 石段(全長27.5m 石垣の高さ0.8~2.0m 石段の幅2.4m)

沼田市・沼田市教育委員会

これが石段



南側から北方向に見たところ



前方の土壇の上に㊸御殿桜がある



森林文化都市



沼田城御殿桜

(総樹齢推定 約1000年)

沼田城御殿桜は、沼田城跡にあり、江戸時代を通じて、沼田藩の藩主が御殿に植えたといわれる。樹齢推定約1000年と、沼田藩の歴史を物語る貴重な桜である。毎年4月上旬には、沼田城跡公園で開催される「沼田城跡公園桜まつり」で、多くの観光客が訪れる。この桜は、沼田藩の藩主が御殿に植えたといわれる。樹齢推定約1000年と、沼田藩の歴史を物語る貴重な桜である。毎年4月上旬には、沼田城跡公園で開催される「沼田城跡公園桜まつり」で、多くの観光客が訪れる。

The Numata Castle Palace Cherry Tree (circa 1000)

The Numata Castle Palace Cherry Tree is a large specimen of the cherry tree. It is said to have been planted by the藩主 (Daimyo) of the Numata Domain in the Edo period. The tree is estimated to be about 1000 years old and is a valuable cherry tree that tells the history of the Numata Domain. Every year in early April, many tourists visit the Numata Castle Ruins Park to see the cherry blossoms.

沼田城跡公園には、約1000年と推定される御殿桜が1本だけあります。この桜は、江戸時代を通じて、沼田藩の藩主が御殿に植えたといわれる。樹齢推定約1000年と、沼田藩の歴史を物語る貴重な桜である。毎年4月上旬には、沼田城跡公園で開催される「沼田城跡公園桜まつり」で、多くの観光客が訪れる。

The tree of the Numata Castle Palace Cherry Tree has not only been preserved but also has been used as a landmark. The tree is said to have been planted by the藩主 (Daimyo) of the Numata Domain in the Edo period. The tree is estimated to be about 1000 years old and is a valuable cherry tree that tells the history of the Numata Domain. Every year in early April, many tourists visit the Numata Castle Ruins Park to see the cherry blossoms.



沼田城御殿桜

(樹齢推定 400余年)

沼田城の天守閣が、5層の雄姿を誇っていたところに植えられ、今に残っている沼田城形見の名木である。

沼田城は初め蔵内城と称した。沼田氏12代の沼田万鬼齋顯泰が、3ヶ年かかって天文元年(1532年)4月完成させ、柳町の幕岩城から引移った。

顯泰は三男朝憲に13代城主を譲り、川場村天神城に隠居したが、後妻の子4男平八郎景義を城主にせんと企て、永禄12年(1569年)正月、朝憲を謀殺、ために沼田氏は築城後37年間にて亡びた。

以来沼田城は上杉謙信、北条氏政、武田勝頼、織田信長、真田昌幸、北条氏直の支配時代を経て、天正18年(1590年)真田信幸が城主となった。信幸の夫人は徳川家康の曾孫=養女=小松姫である。

信幸は関ヶ原戦に徳川方につき、戦功により父昌幸の所領上田城主を兼ねたが、慶長9年(1604年)この御殿桜の処に3階建ての隅櫓(水の手曲輪門)を築造。ついで慶長12年(1607年)今の利根英霊殿の処に5層の天守閣を築造(間口10間奥行9間)本丸の外郭に土塀を築くなど、名城を完成させた。

それから77年後の天和元年(1681年)11月、5代城主信直が徳川幕府に沼田領3万石を没収され、城郭は跡形もなく取壊された。

名城は姿を消したが、この御殿桜は400年の風雪に耐え、根は古塁の石垣をしっかりと抱き、春ごとに寂寥の色をたたえた花を開き、興亡の歴史を語りつづけている。

(岸 大洞 文撰)

さて、石段を右手に見てここを下っていくと西櫓台の石垣がある



こんな感じ



右手に折れたところで石垣を見る/こちらが西面となる



さて、「本丸跡」から北方向へ進むと、前方に「捨曲輪跡」が見える



ここが城内の北西角にある「捨曲輪跡」/北西方向に見たところ



これは⑩村上鬼城句碑



これは⑨沼田平八郎首石



平八石の由来

沼田平八郎景義の首級を載せた石。平八郎は沼田城（蔵内城）を築いた沼田氏 12 代顯泰の側室の子で、摩利支天の再来とまでいわれた勇将。顯泰は城を嫡子朝憲に譲り、平八郎を連れ川場村天神城へ隠居したが、側室とその兄金子美濃守らにそそのかされて、永禄 12 年（1569 年）正月、朝憲を呼びよせて謀殺。そのため顯泰、平八郎は沼田勢に追われ会津へ逃げた。平八郎は 12 年の後、沼田城奪還の兵を挙げて沼田に迫った。真田昌幸は戦っては平八郎に勝てないと知り城中に居た金子美濃守をだました。貪欲な美濃守は、己が栄進したいため平八郎に会い武装を解き、こっそり城内に入れて「お前が必ず城主になれるようにしてやる。」と偽り、城内へ誘い入れて殺害した。風雲児の最後また哀れだった。時に天正 9 年（1581 年）3 月 14 日（一説は 15 日）42 歳。平八郎の首級は昌幸が実検の後、この石の上に置いた。亡骸は町田町の小沢城址に葬り、沼田大明神として祀ったが首級は此処から亡骸を埋めたところまで飛んで行ったという。

（岸 大洞 文撰）

北西方向を見たところ/この方角に名胡桃城跡がある



名胡桃城跡は正面やや左手の谷あいの方にあるようだ



アップで見たところ



これは「捨曲輪跡」の北東側に建つ天狗堂





天狗面の由来

このお堂にある天狗面は、昭和34年11月に高橋山の天犬天狗面の分身として沼田寺観光協会が製作した。顔の長さ3メートル、顔の幅2メートル、鼻の高さ1.4メートル、重さ1トンで本流りの天狗面としては日本一の大きさを誇る(彫刻家：斎沢健三郎氏)。同年、市内の祭りにおいて天狗面りの行列が盛況し、全国でも稀な行事として賑わいを見せた。

天狗面は富山県初子の鎮守である中嶋神社の化身だといわれる。

初子寺は高井元年(848年)に創建され、南正2年(1456年)に天狗窟権神諭によって曹洞宗に改宗した。神諭に随行した弟子の中嶋草部は数十年前に渡り布教と勧修の道程に尽くした。神諭が天冠神跡に仕懸の座を譲ると、「貴洲草部の化身にて已に種化修行は終わった。よって今後は永くこの山に置し、来世の衆生を救済出来せん」と誓願して富山峰から昇天し、後に天狗の面が降されたといわれる。それを中嶋神と称して祭り信仰を興めている。現在、初子寺には地元商工会の有志が奉納した顔の長さ6.5メートル、鼻の高さ2.8メートルの日本一の大天狗面が安置されている。

The Origin of the mask of the Tengu

In November, 1959, The Tourist Association of Numata manufactured the Tengu mask enshined and stored in the temple annex in Numata Park. This mask is a copy of the big Tengu mask kept at Koshuzan. The copy was carved by Shanzaburo Yoshizawa and measures 3 meters long by 2 meters wide. The nose is 1.4 meters long and the whole thing weighs 1 ton. It is the biggest wood crafted mask in Japan.

People came into Numata to perform the Tengu dance procession for the first time in 1959. This procession was quite an unusual event in Japan.

It is said that the Tengu mask of the Murokuji Temple at Koshuzan is an incarnation of Choshuzan, the guardian deity of the temple.

The temple was first built in 848. In 1456, the Zen master, Tansenkaijin-tenshi brought the Sotoan Buddhist sect to Koshuzan and sought to improve the temple.

For several decades, he and Choshu, his best student, were devoted to promoting and constructing the temple. When Tansenkaijin-tenshi resigned his post to make way for Tansen-senzhi, Choshu disappeared saying, "I am an incarnation of Kasha who is one of the pupils of Buddha, my duty is finished. Hereafter, I will pass on to save people from suffering and bring them good fortune." As Choshu disappeared a Tengu mask took his place. The mask was named Choshuzan and worshipped. It has attracted many believers.

The biggest Tengu mask in Japan may be seen in the temple today. It is 6.5 meters long by 4 meters wide. The nose is 2.8 meters long. This mask was presented to the temple in 1939 by volunteers from the local society of commerce and industry.

天狗面の由来

このお堂にある天狗面は、昭和34年11月に迦葉山かしょうざんの大天狗面の分身として沼田市観光協会が製作した。顔の長さ3メートル、顔の幅2メートル、鼻の高さ1.4メートル、重さ1トンで木彫りの天狗面としては日本一の大きさを誇る(彫刻者:吉沢俊三郎氏)。同年、市内の祭りに初めて天狗踊りの行列が登場し、全国でも稀な行事として賑わいを見せた。

天狗面は迦葉山みろくじ弥勒寺ちゅうぼうの鎮守である中峰尊者の化身だといわれる。

弥勒寺かしょうは嘉祥元年(848年)に創建され、康正2年(1456年)に天巽慶順てんそんけいじゅん禅師によって曹洞宗に改宗した。禅師に随行した弟子の中峰尊者は数十年間に渡り布教と伽藍の造営に尽くした。禅師たいせいが大盛禅師に住職の座を譲ると、「吾迦葉佛の化身にて已にごんけけぎょう権化化行は終わった。よって今後は永くこの山に靈し末世の衆生をばっくよろく抜苦与楽せん」と誓願して案山峰から昇天し、後に天狗の面が残されたといわれる。それをちゅうぼう中峯尊と称して祭り信仰を集めている。現在、弥勒寺には地元商工会の有志が奉納した顔の長さ6.5メートル、鼻の高さ2.8メートルの日本一の大天狗面が安置されている。

さて、ここは「捨曲輪跡」の東側で、なにやら発掘調査中のようだ



堀跡状になっており、一部シートが掛けられている/西側から東方向を見たところ



これは向こう側の東側から西方向に見たところ/左手は「本丸跡」



これが上記の堀跡の調査結果/沼田市観光案内所の資料より

沼田城跡発掘調査について

平成28年11月13日
沼田城跡発掘調査
現地説明会 解説資料
主催 沼田市教育委員会

沼田公園長期整備構想に伴い、沼田公園北側の天守推定地付近（図1・2）を平成28年7月19日～9月30日の期間、約300㎡を調査しました。

平成28年度調査地点



図1 調査地点位置図



図2 正保城絵図（沼田城）

調査箇所は大きく分けて堀の上、堀の中となります（図3）。

堀の上では石組遺構や柱穴を検出しまし



た。石組遺構は東吾妻町の岩櫃城のものに類似しており、今後の研究課題となるでしょう。遺物は五輪塔（墓石）の一部等が、出土しています。縄文土器の破片が1点出土しており、この土地が縄文時代から何らかの形で利用されていた可能性があります。

堀の中（図3）は階段状に掘られた状況や裏込石（※1）を確認できましたが、石垣そのものは発見できませんでした（※2）。

遺物は大量の瓦が出土し、金箔らしきものや釘などの金属製品も出土しています。

堀（図4）は深さ約10m程度まで調査しましたが、堀底に到達せずこれ以上の発掘は危険なため調査を止めています。関東ローム層を掘り込んで造られています、とても深いため関東ローム層よりも下の沼田礫層をも掘り込んでいます。

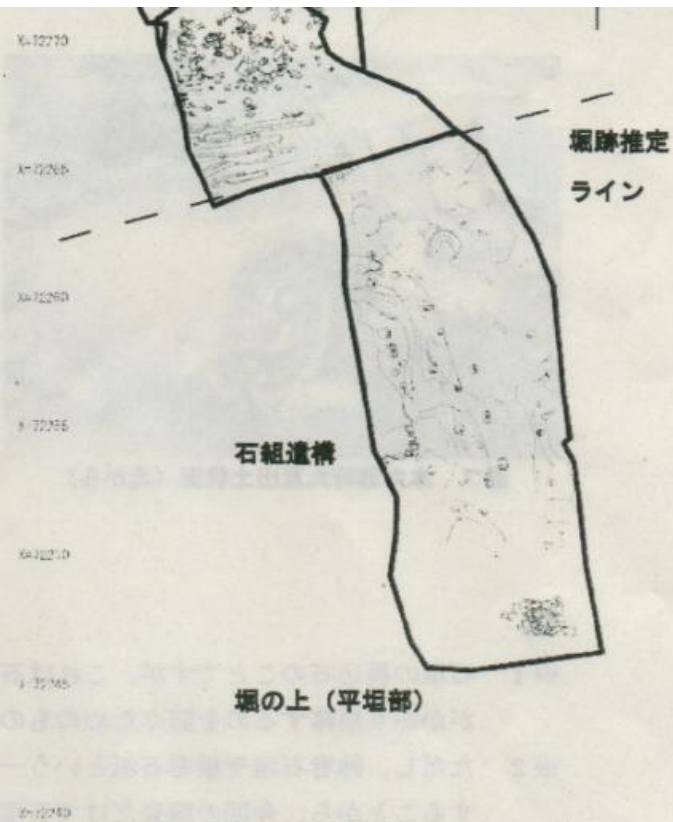


図3 調査区平面図（縮尺1/300）

沼田市観光案内所の資料より



図4 本丸堀土層断面 (縮尺1/150)

正保城絵図(※3)には天守部分の本丸堀の石垣の高さが8間(約16m)とあり、約10m発掘しても堀底が出なかったという発掘結果もこの記述を裏付けるものと思われます。



図5 石組遺構検出状況(東から)



図6 本丸堀跡全景(北東から)



図7 本丸堀軒丸瓦出土状況（北から）



図8 本丸堀金箔(?)出土状況（北から）

注

- ※1 石垣の裏込石のことですが、これは石垣の裏に設けることで水はけを良くし、石垣に水圧がかかり崩落するのを防ぐためのものです。
- ※2 ただし、鉢巻石垣や腰巻石垣という一定の範囲にのみ石垣が築かれたものが他の城に存在することから、今回の調査だけで石垣がその場所に存在したか、しないのかは断言できません。
- ※3 正保城絵図は徳川幕府（徳川家光が将軍の時）が全国の大名に作成を命じたものです。城の規模や構造を絵図と数値（例えば石垣の高さ）で示させました。

さて、これはその堀跡を左手にして北方向を見たところ/こちらも「二の丸跡」のエリア



これは右手に建つ沼小講堂記念体育館



これはその右手に建つ武徳殿



こちらは更にその右手の旧生方家住宅(左手)と旧土岐邸洋館(中央奥)/右手は生方記念資料館



説明板が立っている



国指定重要文化財

旧生方家住宅

指定年月日 昭和四十五年六月十七日

所在地 沼田市西倉内町五九四番地 沼田公園内

構造形式 桁行一八・九四〇m、梁間一一・三六四m

切妻造、妻入、板葺石置屋根

生方家は沼田藩の葉種御用達を勤めた商家で、沼田市上之町一九九番地に所在し城下町の本格的町家として東日本における稀にみる古い遺構であることから国の重要文化財に指定された。

建物の年代は専門家の意見によれば構造手法からみておよそ十七世紀末期頃に建てられたものと思われる。その後、元治、明治、大正、昭和と数次にわたり改修を受けながら使用されてきた。

沼田市はこの建物を譲り受け沼田公園内に移築保存することとなり、昭和四十八年六月、国・県の補助を受け復元工事を完了した。建物は間口六間、奥行十間、南面に土庇、東面に下屋を設ける。切妻造り、妻入りで屋根は板葺石置である。

平面は主屋南面に「上みせ」「下みせ」「通り庭」を配し東側の「上みせ」奥に四室をならべ、家のほぼ中央には二十畳の広い板の間を設け西の通り庭から北面にかけて土間を設けている。

これは町家としての典型的な間取りであり、各部屋の境に壁が多く、柱の密度も高いがこれが古い建物の特色である。小屋組は貫を成りちがいに通した和小屋で、仕上げは大部分手斧はつりで古式を残している。

平成二十二年三月

沼田市教育委員会



登録有形文化財（建造物）

旧土岐家住宅洋館

登録年月日 平成九年十一月五日

所在地 沼田市西倉内町五九四番地 沼田公園内

構造形式 木造三階建、スレート葺 建築面積一一九㎡

この建造物は、沼田藩主であった土岐家の家督を継いだ章子爵が大正十三（一九二四）年、現在の東京都渋谷区に建築した住宅で、現存する洋館部分が土岐家からの寄贈により、旧土岐邸洋館として平成二年八月にこの地に移築された。

外観の特徴は、大正末期から昭和初期にかけてみられたドイツの郊外別荘風住宅で、俗に「牛の目窓」と称される屋根窓を中央に配した急勾配の天然スレート葺屋根と二階の下見板張りの外壁、一階の黄土色のドイツ壁仕上げに大正期特有の様式がよく表されている。

また、洋館内部意匠は、装飾を豊かに用いた明治期の洋館と異なり、壁・天井ともに白漆喰仕上げとして和室とともに表面の装飾的な扱いを避け、生活を基本とした内部意匠を優先させている。

本建築は、明治期の大規模邸宅建築に見られた独立した洋館から、洋館と平屋の和館が接続し、応接空間を小規模の洋館として玄関脇に設置する昭和初期の文化住宅への過渡期を示す特徴を有している。部屋の間取りも土岐子爵の接客内容をよく伝えており、大正末期の貴重な遺構である。

平成九年に登録有形文化財として文化庁登録原簿に登録された。

平成二十二年三月



沼田市教育委員会

重要文化財の旧生方家住宅



説明坂がある



土庇とたたき土

母屋より約2メートル張り出し
たこの庇は東日本でよく使われる
建築様式で、店に来るお客を雨や
雪から守るためのものです。

越後（新潟県）に見られる雁木
は土庇が連結した形といえましょ
う。

土間は「たたき土」で仕上げて
いる。たたき土とは粘土、消石灰、
にがり、砂を合せて作ったもので
これを搗でたたきしめます。耐水
性が強く現在のコンクリートの性
質、用途を持っていました。

沼田城の歴史

◆沼田氏と沼田城

沼田市は群馬県の北部に位置し、四方を山に囲まれた盆地を中心として、利根川や薄根川・片品川周辺には高低差の大きい河岸段丘が発達しています。沼田公園のある段丘崖先端に最初に城を築いたのは、鎌倉時代以来この地方の有力者であった沼田氏12代の万鬼齋顕泰で、天文元年(1532)頃と云われています。倉内城とも呼ばれたこの城は、北陸から関東へ至る要衝の地にあり、越後の上杉氏や小田原の北条氏、甲斐の武田氏などの戦国大名により、激しい争奪が繰り返られることになりました。

天正8年(1580)、武田勝頼の命により吾妻方面から進出してきた真田昌幸は沼田城を攻略し、さらに翌9年には沼田城の奪還に來攻した沼田平八郎景義を謀殺して沼田氏を滅亡させました。

しかしこれ以後、この地の領有を主張する北条氏とこれに応じない真田氏との間で沼田城をめぐる攻防が続きましたが、同18年(1590)に北条方が真田方の名胡桃城を不法に攻略したことが契機となり、北条氏は豊臣秀吉の小田原城攻めにより滅亡しました。秀吉は真田氏に信濃2郡と利根・

復興を命ぜられ2万石で入封しました。しかし、城の本格的な復興はなされず、城破却で埋められた堀の整備や土塁の構築などが行われたのみでした。本多氏3代のあとは再び代官支配となり、その後享保17年(1732)黒田直邦が2万5千石で入封し、2代続きました。寛保2年(1742)には土岐頼稔が3万5千石で入封し、土岐氏は12代頼知で明治維新を迎えて沼田城は廃城となりました。真田氏改易以降は三の丸に藩邸が造られたものの、天守や櫓が再建されることはありませんでした。

官有地となった城地は、明治期に民間に払い下げられていましたが、大正5年(1916)、旧沼田藩士の子であった久米民之助(沼田市名誉市民)が、城地の荒廃を惜しみ私財を投じて本丸とその周囲一帯を買収し、公園として整備しました。大正15年(1926)に公園が沼田町に寄付され、これが現在の沼田公園となりました。

◆現在の沼田城

現在、本丸・捨曲輪と二の丸・三の丸跡の一部が沼田公園(一部市指定史跡)に、総曲輪の一部が沼田小学校や沼田女子高等学校の敷地とな

吾妻の旧領を安堵し、昌幸は沼田城を嫡子の信幸に与え信濃国上田へ移りました。

◆真田氏と沼田城

2万7千石の真田氏初代沼田城主となった信幸は近世的な城郭の整備をすすめ、二の丸、三の丸、堀、土塁、大門等が普請され、慶長2(1597)年には天守が完成したと云われています。現在の沼田公園熊小屋付近に建造された天守は、幕府に提出した城絵図や古文書から「九間十間で五重」であったとが分かっています。

真田氏はその後2代信吉、3代熊之助、4代信政、5代信利(信澄・信直)と約1世紀にわたって沼田領を治めていましたが、天和元年(1681)11月、5代信利は江戸両国橋用材の伐出し遅延と失政の名目で領地は没収され、改易となりました。城は幕府に明け渡され、翌年正月に城はすべて破却されて堀も埋められました。

◆その後の沼田城

真田氏改易後、旧真田領は天領となりましたが、元禄16年(1703)本多正永が幕府より沼田城

っています。本丸跡に西櫓台と石垣、本丸堀の一部がみられ、僅かに城の名残を留めています。

本丸跡には鐘樓が建設され、真田信吉が铸造させた城鐘(県重文)の複製品が釣下げられ、朝夕に時の音を響かせています。また、二の丸跡には、国重文の旧生方家住宅や国登録の旧土岐家住宅洋館・旧日本基督教団沼田教会紀年会堂などが移築されています。

沼田城天守推定復元図



- ① 入母屋瓦葺
- ② 城
- ③ 水運橋子
- ④ 三重(六段)
- ⑤ 高櫓
- ⑥ 外縁
- ⑦ 度越屋
- ⑧ 四重

- ⑨ 千鳥破風
- ⑩ 三重
- ⑪ 二重
- ⑫ 切妻破風の石落し
- ⑬ 一重(一階)
- ⑭ 石落し
- ⑮ 天守台石垣
- ⑯ 堀、内側は武者走り

復元係 日本城図 関東より

沼田市内文化財



平成9年4月現在

参考ホームページ

<http://iyokakuzukan.la.coocan.jp/004gunma/015numata/numata.html>

http://castle.slowstandard.com/08kanto/15gunma/post_35.html

<http://umoretakojo.jp/Shiro/Kantou/Gunma/Numata/>

<http://ablinker.com/numatajyou.html>

<http://www.hb.pei.jp/shiro/kouzuke/numata-ijo/>

<http://tabi-and-everyday.com/archives/619>

<http://castlejp.web.fc2.com/02-kantoukoushinetsu/68-numata/numata.html>

<http://ggt.blog.so-net.ne.jp/2010-05-19>

<http://www.zephyr.dti.ne.jp/bushi/siseki/numata.htm>

